

第5章 地域の行動

第1節 環境市民会議の取組

地域の環境を保全し、回復させるには、市の環境施策を推進するとともに、市民・事業者の自発的な環境保全活動が不可欠となってきます。

ここでは、環境市民会議が各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の活動や取組を報告します。

皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、「知る、考える、行動する」きっかけとなれば幸いです。

環境市民会議とは？

市内を6つの地区に分け、その地区の環境が良くなるよう自ら活動する団体です。市内在住・在勤・在学の方であればどなたでも参加できます。

環境保全の取組は、一人ひとりの行動が最も重要ですが、その地区の取組の推進力となるのが環境市民会議です。地区内の町会・自治会や事業者、あるいは各種団体との連携を図りながら活動しています。

環境基本計画では、地区ごとにめざす環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理し、その解決に向けた主な取組などを「地域の行動」として示しています。

この地域の行動は、環境市民会議によって策定されたものです。

6地区の位置図



中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

中央地区は、えきまえテラスの完成や八王子駅南口集いの拠点の整備開始、また各地域におけるマンション建設の進行により変化しつつあります。中央を流れる浅川周辺は災害時でも安心して過ごせるよう整備され、市民の散歩、憩いの場となっています。その浅川において定期的にごみ拾いや生物の調査、水質検査等を実施することで、皆が気持ち良く過ごすことができ、景観を保つ努力をしています。しかし、人目に付きづらい箇所は、不法投棄やごみが残されている状況ですが、小学生向けの川の学習や自然観察会等を通し、誇れるまちにしていこう活動を継続します。

■ 中央地区の主な取組

1 地球温暖化防止のための省エネ生活の推進

地球温暖化防止活動推進員として家庭グループの打ち合わせを3回開催し、延べ22名が参加しました。

12月の温暖化防止月間では、家庭の省エネ講座を2回企画しました。また、学童保育所にて、写真や紙芝居、クイズなどで地球温暖化防止の大切さについて楽しく学べる出前講座を14回開催し、延べ410名の児童と48名の職員が参加しました。地球温暖化を自分事ととらえ、出来る事から始める大切さ、ゼロカーボンシティ宣言を児童から家庭・学校・地域に広めて市民に理解してもらう活動を継続しています。



家庭グループの打ち合わせ

2 ごみの分別徹底とリサイクルの推進

中野・台町・子安市民センターまつり・いちよう祭りに参加し、海洋プラスチック問題の対策として、クイズを交えながら、プラスチックを使わない生活への転換をアピールしました。



学童保育所での出前講座

3 河川の清掃活動

中野橋周辺の川口川・浅川で清掃活動を5回実施し、合計44名が参加、可燃ごみ40袋、不燃ごみ11袋を回収しました。自然環境保全プロジェクトはポイ捨てごみ回収を4回実施し、延べ10名が参加しました。可燃ごみ13袋、不燃ごみ7袋、ビニール傘や使用済み花火などを回収しました。なかなか投棄ゴミは減少しない状況です。



中野市民センター七夕まつりでの活動

4 河川の巡回観察・調査活動の推進

河川巡回と課題別巡回を23回実施、延べ30名が参加しました（浅川14回、南浅川3回、山田川3回、川口川3回）。前年に続き川口川のごみ問題は大きな課題です。

河川調査は身近な水環境の全国一斉調査、水生生物調査、水質と水生生物調査、湧水集水溜り調査を全14回実施、延べ44名が参加しました。種の単純化傾向がみられ、生物多様性の保全が重要な課題となっています。



河川清掃活動

5 環境教育・環境学習などの推進

エコひろばの環境教育支援事業「川の学習」は体験学習と課題別学習で、地区内小学校7校（第一小、第二小、第四小、第五小、第九小、第十小、大和田小）と地区外小学校3校に対して、合計18回支援し、延べ54名が参加しました。応援受け入れは延べ42名でした。加えて学習様子のパネル7校分を作成しました。川の学習サポーター養成講座は実行委員会を含め15回延べ27名が支援に参加しました。

八王子浅川水辺の楽校運営協議会主催の「ウグイの放流」に2回2名、「ガサガサ探検隊」に4名が支援参加し、グループリーダー養成研修会とガサガサ体験教育プログラムにも延べ4名が参加しました。

「はちおうじ環境だより」への投稿は、調査巡回の結果紹介と共に、動画では野鳥を中心に継続しています。



浅川鶴巻橋周辺の調査

6 まちのみどりの保全

学校で緑に親んでもらう活動として第一小学校、第四小学校の校庭にある樹木に名札付けを実施しました。また、明神町なかよし公園の花植え替えを季節に合わせて春、秋に実施しました。



大和田小学校 川の体験学習

7 大気汚染測定

大気汚染測定運動東京連絡会主催の全都一斉測定運動に参加し、6月と12月に二酸化窒素濃度の定点調査を実施しました。居住区域3ヶ所の測定結果が、環境基準以下で安定していることを確認しました。



自然体験講座の様子

■ 特色のある取組

自然体験講座では、市街地の豊かな自然を紹介する内容で10月と3月に開催し、合計で36名が参加しました。

北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

地区の東エリアは住宅地が広がっており、中には保全緑地として昔からの緑が保存されている箇所も見られます。西エリアは南・北加住丘陵に代表される豊かな緑が残っていますが、手入れが行われていない樹林地も存在しています。地区の中央には谷地川が流れ、上流では昔からの自然護岸が残っています。しかし上流の水質が悪く、改善していく必要があります。

また、中央エリアは国道16号・20号、16号バイパス、新滝山街道のほか、中央自動車道八王子ICも近く、交通の要衝となっています。このことから、大気汚染の状況にも注視しています。近年は、濃度が改善傾向にありますが、16号バイパスの一部ではまだ数値が高い地点が見られます。

その他にも、人目に付きにくい場所へのごみの不法投棄対策や環境保全意識の啓発、地区の貴重な自然・文化・歴史を知る機会の提供など、さまざまな分野でITツールを活用した対応を行っていく必要があります。

■ 北部地区の主な取組

1 谷地川の調査と清掃活動

市の川の清掃デーと合わせて、地元自治会と協働して町内の環境パトロールと清掃活動を行いました。手入れが十分に行われていない部分では、住民の生活道路としても多用される河川沿いの道路にアメリカオニアザミ、オオキンケイギクやワルナスビなどの外来生物が繁殖域を拡大しているのが見受けられるため、適宜駆除を行いました。



清掃活動

2 緑地保全活動

地区内の環境活動団体と協働して都の緑地保全地域（3か所）、市の緑地（3か所）等の保全・整備活動を実施しました。また、大谷緑地保全地域で5地区目の二巡目となる皆伐を行いました。

3 環境教育・環境学習などの推進

宇津木台小学校の児童に、多摩川で自然を学ぶ授業の支援を計画しましたが、天候に恵まれず、今年の実施できませんでした。児童の皆さんが楽しみにしているものなので、来年度は是非実施したいと考えています。また、市内の他団体と協働して、大和田小学校、第八小学校を対象に、里山林の意義と活用の仕方を学ぶ活動を実施し、楽しみながら自然を体験し学ぶ場を提供しました。



谷地川旧河川のアメリカオニアザミ

東京グリーンキャンパスプログラムに参加し、東京都立大学の学生を対象に、緑地保全の基本や様々な保全活動を紹介し実践しました。また、東京グリーンシップアクションでは、企業の皆さんを対象に、緑地保全の体験を通して、環境問題や緑の保全の重要性を理解してもらうプログラムを実施しました。

4 大気汚染測定

都内一斉調査日に、地区内の幹線道路、その他の道路、道路に面さない場所等を対象に、二酸化窒素濃度の定点調査を年2回（6月、12月）実施しています。担当者8名で、45地点（うち17地点は平成16年環境市民会議発足当初から継続して測定）を測定しました。各調査地点の濃度は減少傾向にあります。幹線道路沿いでは高めの数値が観測されているため、今後も定点測定を継続していきます。



大気汚染測定の交差点

5 地域との協働活動の推進

環境市民会議を知ってもらうため、石川・加住市民センターで市民会議活動パネル展示と入会勧誘を行いました。環境フェスティバルでは、活動内容の紹介パネル展示、花苗の配布、谷地川の生物展示、身近な道端の花を使った押し花のしおり作成・配布などを行いました。また、駆除を呼び掛けている生態系被害防止外来種の「アメリカオニアザミ」を展示し、身の周りに危険な存在があることを知らせて、駆除の必要性を理解していただきました。会場に大型ディスプレイを設置し活動内容を映像化したものを流しました。来場された方に環境市民活動への参加の動機付けとなることを期待します。



市民センターでのパネル展示

■ 特色のある取組

(1) 自然体験講座

秋季に滝山城跡の自然と歴史を紹介する講座を、春季に滝山自然公園と高月の田園を散策する講座を開催しました。

(2) 活動の発信

広く活動内容を知ってもらうため、動画の配信を行いました。また、動画の二次元コードを印刷したカードを作成し、配布しました。パンフレットだけではなく、動画により手軽かつ効果的に理解の促進を図りました。今後も、デジタルツールを活用した取組を推進していく必要があると考えています。



活動の紹介



アメリカオニアザミの駆除



自然体験講座

西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

西部地区は、西側から市街地に向かっていくつかの丘陵と北浅川や川口川が流れ、今熊山、金剛ノ滝、天合峰があり自然に恵まれた地域と言えます。これらの自然を守るため、大気汚染測定、川の水質調査、里山保全活動を行った結果、さまざまな生物が戻りつつあります。

当地区では「八王子市みどりの基本計画」に則り、八王子市景観100選に選ばれた「上川の里特別緑地保全地区」を環境教育の場として活用し、学習資料も兼ねたマップ作成も進めています。この里山は、四季折々の花が楽しめ、6月にはホタルが飛び交い、秋には棚田が黄金に輝き癒やされる場所です。

■ 西部地区の主な取組

1 稲作体験授業支援

棚田がある上川の里では、上川口小学校が食育や地域に根ざした教育の一環として位置づけている稲作体験授業を支援しています。支援は令和5年度で7年目になります。PTA、学校運営協議会、地元のNPOなどと協力し、代かき、田植え、稲刈り、ハザかけ、脱穀、精米を経て学校給食として活用されています。



稲作体験授業支援

2 親子里山探検隊 i n 上川の里

年2回、春と夏に開催される親子里山探検隊は、毎年応募者が多く人気の講座です。

春にはシュンラン、キンランを始め、ツルアリドオシやウグイスカグラなど多くの植物が観察できます。両生類では、春一番にヤマアカガエル、ニホンアカガエルがビオトープ（命が生まれる場所）に産卵し始めます。初夏にはゲンジボタル、ヘイケボタルが飛び始めます。



親子里山体験 i n 上川の里

3 環境フェスティバル

SDGs目標 ⑬「気候変動」⑮「陸の豊かさを守ろう」をテーマに、生物多様性に関連した写真をパネルで展示しました。森をはぐくむキノコの写真や、生態系内での食べる食べられるを示した食物連鎖などの写真を展示しました。

気候変動に関して学校稲作体験授業の水田が初めて水枯しました。



環境フェスティバル

4 河川・湧水の水質調査

川の水質調査は、毎年6月に行われる水環境の全国一斉調査を含む年2回、13地点で測定しており、令和5年度も継続しました。また、湧水の調査は8月に行いました。

5 大気汚染測定

高尾街道、陣馬街道の主要道路付近を中心とした地点で、年2回大気測定を行いました。なお、測定値は基準値内に収まっており、おおむね安定しています。

6 環境教育支援事業の実施

小学校の総合学習の一部として行われる、八王子の自然を体験する「川の学習」と「みどりの学習」を支援しています。

「川の学習」では、体験学習6校と、魚・水生生物・植物・石や鳥といった、児童が興味を持ったテーマに特化して学習する課題別学習を2校で実施しました。

「みどりの学習」では、上川の里で、生物多様性を学ぶ座学や、生物や植物の調査を行いました。



みどりの学習

7 自然体験講座

地区内の自然、史跡を巡る講座を7月と11月に行いました。

夏には高尾の森自然学校で昆虫採集や野鳥観察を行いました。秋には紅葉の元八王子を散策しました。

8 公園アドプト制度

令和2年度から公園課の公園アドプト制度に登録し、草が繁茂する時期、枯葉の落ちる時期など適時にあらい公園の清掃活動に取り組んでいます。



自然体験講座

9 川のクリーン活動

大沢川と城山川のクリーン活動を年2回行いました。川の景観の維持のため、継続して取り組んでいきます。

■ 特色のある取組

式分方小学校の4年生を対象に行われる環境教育において、生ごみの減量や、堆肥として生ごみを再利用することなどを通じて、ごみ減量の意識を向上させるための学習支援を行っています。

ダンボールコンポストを活用した堆肥作りを行い、児童の作業後にメンテナンスを担当しました。式分方小学校支援は11年目となりました。作られた堆肥は、学校での野菜作りや花壇作りに活用されています。

西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

高尾山は年間300万人が訪れる、豊かな自然や史跡などの宝庫です。当地区では、自然観察や環境パトロールを行い、植生・生きもの・景観・周辺の案内板などの変化を記録するとともに、保全関係者と情報交換の機会を作り、意義のある調査活動をめざしています。

湯殿川では、水辺環境の改善によって多様な水生生物が見られるようになり、蛍の生息域は年々広がっています。しかし、粗大ごみやプラスチックごみが多いため、地域と協力して川の清掃に取り組んでいます。一方、南浅川では、近隣の町会と協働で川床のごみ拾いなどを行い、水辺環境の改善に努めています。川の生きもの調査をスタートして3年目、南浅川は異常気象の影響で瀬切れが近年続いており、川の生態系にどのような影響を及ぼしているか定期的に調査を行っています。

■ 西南部地区の主な取組

1 高尾山の環境保全活動

高尾山の多様な動植物や固有の生態系の変化を記録するため、観察やパトロールを年4回実施しました。高尾山レンジャーと連携し、情報共有しました。

令和4年度に引き続き、高尾サポートレンジャーと協働で小仏川の野草園付近の遊歩道の整備を行いました。また、以前から提案していた、高尾山への観光客の一極集中を緩和させるための案内板設置については、関係団体や行政の協力のもと取組を進めています。

2 地域の宝の掘り起し

自然体験講座「湯殿川とその周辺の歴史散策」を10月に開催し、15名が参加しました。高尾駅南口をスタートし、医療センターを經由し、上館公園、親水緑地(蛍飛翔)、御霊神社、浄泉寺、龍見寺、和合橋緑地や旧河川跡、桐田遺跡公園を散策しました。龍見寺では、都重要文化財の大日如来像を拝観しました。



国史跡 桐田遺跡公園

3 里山の保全活動

9月に自然体験講座「里山探検隊」を館町緑地保全地域で開催しました。子どもを含む20名が参加しました。3月には自然体験講座「早春の野草観察会(スプリングエフェメラル)」を小仏川遊歩道で開催し、20名が参加しました。



自然体験講座(里山探検隊)

4 親しみのある水辺環境の構築

(1) 河川の水質調査(全国一斉調査)

6月に当地区の一级河川及びその支流21か所の水質測定を行いました。台風2号の梅雨前線刺激の大雨から、予定の3日後に実施しました。CODの平均値は0.9mg/Lとなり、昨年に比べ0.6mg/Lプラスでした。

(2) 湯殿川・南浅川の清掃活動

5月に湯殿川を「みんなのまちの清掃デー」に登録、延べ13名が参加し、可燃・不燃ごみ12袋と粗大ごみを収集しました。また、3月には近隣4町会(原、原宿、新地、長房)と協力し、総勢24名で南浅川の川床・遊歩道を清掃し、可燃・不燃ごみ11袋と粗大ごみを収集しました。

(3) 湯殿川の水辺環境調査

湯殿川の上流端から白旗橋まで、約1か月間蛍の飛翔調査をしました。6月上旬がピークとなり、調査区域全域に出現するようになりました。

(4) 川の生きもの調査

南浅川（年3回）と湯殿川（年2回）で定点調査を行い、生態系の変化や天候との関わりなどを分析し、その結果を、イベントなどを通じて広く市民に紹介しました。



南浅川の生きもの調査

5 生活環境保全

(1) 大気汚染NO₂調査

6月と12月に測定点25か所を8名で計測しました。6月測定値は、基準値0.04ppmに対し、0.012ppm、12月は0.016ppmで、2回の測定値は安定していました。

(2) 不法投棄パトロール

3月に殿入中央公園周辺（公園内、埋立地、峠奥通路）で実施し、10名が参加しました。本年は埋立地の大型ごみがありませんでした。新たに幼稚園前の殿入川内のごみの除去に取組み、併せてごみの収集量は可燃・不燃ごみ45L9袋、20L2袋でした。



不法投棄パトロール

6 環境教育支援

川の学習支援校は、緑が丘小、栢田小、横山第一小、横山第二小、長房小、東浅川小、浅川小、みどりの学習支援校は浅川小学校で、合計で8校に14回支援を行い、支援者延べ63名が参加しました。川の学習を重ねることにより、生徒が自主的に河川のごみ拾いを行い分別するなど、周辺の環境整備に関心を持ち、SDGsへの関心が高まるなど、支援成果が出てきました。



川の学習（南浅川）

7 地域の環境活動との連携

いちよう祭りではクリーンな祭りを実現するため、いちよう祭り実行委員として当地区も参加しました。新型コロナウイルスが5類に移行されたことから、例年に近い規模で開催されました。

高校生を中心とした学生を対象に、ごみ分別の講座を開くなど事前に啓発活動を行い、活動は延べ4日間23名参加しました。

開催日の2日間は8ヶ所のごみ集積所で桑志高校生及び国際ボランティア学生協会（IVUSA）と対応しました。



いちよう祭り ごみ分別活動

■ 特色のある取組

西南部地区3つの市民センター祭りに、西南部地区として環境市民会議の啓発活動を行いました。5月の長房ふれあい端午まつりでは、パネル展示と水槽展示による南浅川の川魚や水生昆虫などの生きもの展示を行いました。10月の横山市民センター祭りや11月に開催された浅川市民センター「秋の文化展」ではパネル展示を行い、積極的に環境市民会議の活動などの紹介を行いました。

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

数年前から発生し始めたナラ枯れの被害は深緑の中に枯れ木が点在し、強風で落枝や倒木の危険があります。この現象は長い間、手入れされなくなった里山の各所で見られ継続的な山の手入れの必要性を感じます。また、雑木林に竹が侵入して里山としての維持が難しくなっています。手入れをする担い手が不足し、みどりの減少とともに深刻な問題です。

令和5年度の河川の状況は浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点で行った水質調査によると、COD値は1～3mg/Lを示しています。しかし、橋の下や河川に降りられる場所ではごみのポイ捨てが多くモラルの悪さを感じます。その中にはプラスチックごみが多く、川から海へと流れ、マイクロプラスチック問題となっています。人がしたことが魚だけでなく、水鳥や人間にも害を及ぼすのです。

大気汚染調査は年2回、地区内9か所を継続して行っていますが、昨年より良い傾向になっています。

■ 東南部地区の主な取組

1 駅周辺のきれいさ評価や清掃活動

9月と3月の年2回、JR片倉駅、八王子みなみ野駅、京王線の長沼駅、北野駅、片倉駅、山田駅の周辺を清掃し、ごみの種類と数を集計する「きれいさ評価」を行いました。ごみの数は減少傾向ですが、町の人口が増えている八王子みなみ野駅周辺では増加の傾向が見られます。中でも植え込みにはケイタリングのプラスチック製品やたばこの吸い殻が目立ちました。

また、11月には市、JT(日本たばこ産業(株))と連携して「喫煙マナーアップキャンペーン」を行いました。喫煙場所が少なくなった影響か、歩きたばこが目立ち、吸い殻が歩道などに増えています。

さらには公園アドプト制度を活用し、毎月第2土曜日に大塚山公園の清掃を行いました。大塚山公園は多摩丘陵の最高地点にあります。絹の道に隣接しており、地域住民のラジオ体操の場や散策コースとしても活用されています。

2 河川の水質調査と大気汚染調査

6月の全国一斉水質調査で、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点の調査を行いました。COD値は1～3mg/Lで、ここ数年、数値は安定しています。河川周辺ではごみのポイ捨てが多くみられました。清掃活動とともに啓発活動を行う必要があります。

大気汚染調査は年2回、6月と12月に9か所で行いました。

3 自然エネルギーや節電・省エネの出前講座

8月と12月、「クールセンター八王子」と共催でソーラークッキングを実施しました。恒例の親子講座で参加が多いことから、今回は2回実施しました。太陽光を集める装置を工作し、どれくらいのエネルギーができるか実験しました。天候と時間の影響で集熱した温度の上昇が確認できた

程度でしたが、時間をかければ調理も可能となります。災害などで電気が使用できない状況でも使用できる身近な自然エネルギーの力を子どもたちに伝えることができました。

4 川の学習・みどりの学習の環境学習の支援

5月、由井第三小4年生の学習は湯殿川の舟橋の下で行い、子どもたちは川に魚が多い事に驚いていました。また、9月には課題別(植物、野鳥、水質、水生生物)の学習も行いました。

6月、由井第二小3年生、4年生の学習は片倉城跡公園でみどりの学習を課題別に行いました。初めての試みでしたが、学校から近いところで植物や野鳥だけではなく、歴史の学習もしました。

1月、七国小5年生がみどりの学習として、宇津貫緑地で落ち葉掃きの体験をしました。「宇津貫みどりの会」と協力し、雑木林の成り立ちや山の手入れの必要性、ナラ枯れの現状、集めた落ち葉が微生物によって分解され、堆肥になることを子どもたちに伝えることができました。

5 地域の自然・自然体験講座と勉強会

自然体験講座は、5月「春の花を求めて公園巡り」片倉城跡公園～つどいの森公園～みなみ野丘公園～みなみ野駅までを歩き、様々な花の観察ができました。令和4年度に作成した花巡りのパンフレットを基に説明をしました。参加者にも好評で、地域にこのようなフィールドがあり、身近なところで自然の豊かさを実感できたとの声がありました。

6月「竹切と竹細工をしよう」は宇津貫緑地で親子体験型の初めての試みでしたが、雨のため屋内での作業となりました。竹を活かした竹箒、竹笛、水鉄砲などの作品ができて上がりました。

2月「湯殿川探鳥会」は雨のため、中止となりました。

12月には、会員の親睦も兼ねた学習会を八王子市堀之内の東京薬科大植物園で実施しました。



自然体験講座「竹切と竹細工をしよう」

■ 特色のある取組

宇津貫緑地の竹林の整備を継続して行っています。令和5年度は、6月に新竹の整備を行い、1月に古竹の伐採を中心に整備を行いました。手入れを始めた当初は竹林の中に入れないほど荒れていましたが、整備を始めて約4年が経ち、竹林として健全な状態になりつつあります。竹林は手を入れなければ、良好な林にはなりません。竹林整備の横断幕を設置して、散歩などで通る市民へ啓発活動も行っています。一般市民の参加もあり、竹林整備の広がりを強く感じます。中には樽のタガに使用する竹が欲しいとのことで本事業に参加した人もいます。

竹林を整備するだけでなく、竹林を活かすために竹の効用や竹細工を伝えていくことを、これからも継続して行います。



整備後の竹林と横断幕

東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部（旧由木村）地区の北側は多摩丘陵が東西に走り、南側は多摩ニュータウンとして、それぞれにみどりの景観が形成されています。昭和57年に「南陽台の自然を守る会（現：多摩丘陵の自然を守る会）」が発足して以来、およそ40年に渡り、多くの住民の努力によって、多摩ニュータウン・由木の里山保全活動が続けられてきました。清浄な空気や水の供給源である、みどり連なる多摩丘陵の里山を維持することで、人の生活と多様な生きものの生活環境を守ることができます。環境省が指定する重要里地里山500のうち2か所が当地区にあり（都内では8か所）、別所にある長池公園（面積9.8ha）、堀之内にある堀之内寺沢里山公園（面積5.2ha）が整備されています。

また、同じく堀之内にある宮嶽谷戸は、都から市に管理が移管されたことに伴い設置された宮嶽池検討会（当会より委員を2名選出）で、保全の計画案作りに参加しています。

里山農業クラブ・八王子由木メカイの会を中心に活動してきたメカイ作りが令和5年3月に都の無形文化財に指定され、大きな励みとなりました。

■ 東部地区の主な取組

1 里山保全活動の推進

当地区では、長池公園や堀之内里山保全地域などで、里山・谷戸の保全活動を実施しています。

長池公園では、長池里山クラブが主体となり毎月第2土曜日を中心に月例行事を実施しており、当地区も協力しました。主な活動は、炭焼き（4月）、田植え（6月）、稲刈り（10月）、収穫祭での餅つき（12月）、正月のどんど焼き、炭焼き（2月）、椎茸、ナメコの駒打ちです。さらに、民間企業の環境活動の一環である植樹の取組を、継続的に支援しています。

堀之内里山保全地域では、里山農業クラブ・ユギ里山保全チーム・多摩丘陵の自然を守る会・ゆぎのらで構成される堀之内里山管理協議会が、耕作が放棄されて荒廃した谷戸源頭部の、アズマネザサやアオナリヒラタケの伐採を行い、里山の保全整備を推進しています。年間を通して「里山農業クラブ」と「ゆぎのら」による「里山学校」に協力しました。

また、自然体験講座を開催しています。春と秋の多摩丘陵の自然を知ってもらうため、令和5年度は4月と10月に、樹木や草花を学習しながら歩く自然観察会を開催しました。



整備の完了した宮嶽池

2 花壇の維持・管理

当地区では、南大沢駅前のペDESTリアンデッキに設置された大型花壇22基の維持・管理を支援しています。これは、市のアドプト制度を活用したボランティア活動として、南大沢みどりのサポーターの会が毎月実施しているものです。令和5年度は、毎月2回の定例活動に加え、6月に夏苗の植付け、7月中旬から8月にかけては夏の水やりを実施しました。その他、花の植替えや苗の

手入れ作業も計画通り実施しました。

3 環境教育支援事業の推進

例年行っている川の学習については、本年度は地区内の2小学校で6月と7月に実施しました。また、秋葉台小学校5年生の田んぼの学習を5月から11月に全5回、長池公園の田んぼで実施しました。カイコ・シルクに関する学習も3校で5月から11月に支援しました。



みんなで楽しんだ代掻き

4 大気汚染測定と水質調査

大気汚染測定と河川の水質調査を実施しています。

大気汚染測定については、毎年6月と12月に大気汚染測定運動東京連絡会が主催する全都一斉測定に参加し、令和5年度は6か所の居住区域で実施しました。

水質調査については、6月の「水環境の全国一斉調査」に参加し、大栗川・大田川などの計9か所で河川の水質(COD)を調査しました。橋の上などから採水する際は、自作の表層水採水具を使用し、水深の浅い箇所でも底泥が混入することなく採水することができました。

昨年度から開始した、大腸菌の定点測定を大栗川等の数か所で実施しました。

5 豊かな自然環境への市民の親しみ向上

西緑地科学クラブとの共催でイベントを開催しました。長池公園自然館では、7月に里山の池の小さな生物観察、8月に初音笛作り、11月に竹とんぼづくりを、生涯学習センター南大沢では、9月に由木の自然・水の中で生きる多様な生物をテーマに講座を開催し、市民が里川の豊かさへの関心をもつ機会を提供しました。

また、これまでに刊行した由木地区自然観察路マップ・樹木マップ・みどりの道マップに加え、写真絵葉書10種(クチナシグサ、フデリンドウなど)に加え、クリア・ファイル(ルリビタキ)や「由木地区の里山と自然」、「宮嶽谷戸 堀之内地区の里地里山」のチラシを作成し、各種イベント等で配布しました。

■ 特色のある取組

当地区のウェブサイト(<https://sites.google.com/view/yugi-kankyo-shiminkaigi/>)を開設し、由木地区自然観察路マップ・樹木マップ・みどりの道マップのほか、由木地区里山の植物や野鳥など様々な生物を紹介したり、日頃の活動の成果を掲載しているほか、市民活動支援センターが運営する「はちコミねっと」にも当地区の情報を掲載しています。

また、定例会では学習会を開催しました。4月に「水田域に暮らす湿地帯生物とその保全」、5月に「大栗川における糞便性大腸菌群と大腸菌数の調査結果」、6月に「南多摩のメカイ製作技術」について、7月に「八王子の川の中の生態系と生物多様性」、9月に「八王子市館町池の沢緑地から見た里山保全をめぐる問題」、12月に「地球温暖化防止の教育指導案づくり」をテーマに行い、環境問題の情報共有に役立てました。

地域の行動評価一覧

令和5年度における環境市民会議各地区の活動実績に基づき、地区の活動実績をその地区で総括的に評価したものと、その評価に対する環境推進会議での意見を掲載しています。

<中央地区環境市民会議での総括評価>

先輩たちからの取り組みである大気汚染測定は継続し、環境基準以下で推移している。同じく、水質検査も継続し、水生生物等の定期調査にも取り組み、活動の幅を広げ、他団体にも報告をしている。

地道な温暖化防止等の取り組みにより市民の認識も変化しつつあると感じる。地域・他地域・団体等とも協力した活動ができ、市民会議が認識されてきたと思う。

Facebook「はちおうじ環境だより」の評価数も増えており、生物多様性等の関心を高める一翼を担っていると思う。

<環境推進会議の意見>

年間を通じた河川での生物調査や地球温暖化防止活動など、会員の専門性を活かした活動を展開している。特に、地域のイベントに積極的に参加して、地球温暖化やプラスチック問題に取り組んでいる点が素晴らしい。SNSを活用した情報発信を継続的に行っているため、引き続き情報の発信に努め、市民の意識啓発につなげてほしい。

<北部地区環境市民会議での総括評価>

コロナ禍からの制限緩和や世代交代が徐々に進み、過去の資産を十分に引き継げない困難な中での活動となったが、例年に近い活動ができた。依然として少人数の活動ながら、過去の経過も知らない世代に移行しつつあり、大型モニターやQRコードなどのツールを使った活動も進められた。

地域の市民活動に密着した取り組みなどを進めて、効率のよい活動にしていく必要もあるのではないか。

<環境推進会議の意見>

他団体と連携しながら、企業や学生の方に緑地保全活動の機会を提供するなど、みどりに親しむ人の増加に貢献している。また、QRコードを活用した情報発信は市民の意識向上に役立つものと考えられる。外来種駆除活動は、地域住民を巻き込んで展開しており、活動の成果が出ている点が評価できる。この成功事例について積極的に発信してほしい。

<西部地区環境市民会議での総括評価>

年間の取組項目は概ね実施することができた。

学習支援をはじめ、支援活動にあたっては特に天候(暑さ、雨)に充分気をつけることを心掛けて行い、各活動は無事に行われた。

<環境推進会議の意見>

川の学習、みどりの学習、ダンボールコンポスト学習支援など環境教育支援を積極的に実施している。児童への貴重な環境教育の機会であり、素晴らしい活動である。また、市が保全を進めている「上川の里」を活用した田植えや里山探検隊など、子どもが里山を感じる機会を提供している点が評価されるため、今後も「上川の里」の活用を進めてほしい。

<西南部地区環境市民会議での総括評価>

年間活動計画に基づき、各部会とも計画通りの活動が実施できた。

毎月行われる定例会議（全大会）は出席者数が平均20名を超え、活発な意見交換の場となっている。しかし、会員の高齢化（80代）が進んでいる。若い世代にどう託せるか大きな転換期に差し掛かっている。

<環境推進会議の意見>

地域を代表する自然環境である高尾山において、環境パトロールやレンジャーとの意見交換、協働作業など西南部地区特有の地域に根差した活動が高く評価できる。また、河川の生物調査やホタルの飛翔調査など生物多様性の保全につながる活動が素晴らしいため、調査結果について積極的に情報を発信してほしい。

<東南部地区環境市民会議での総括評価>

竹林の整備の活動は年2回、実施したが、竹の侵食が激しく、次年度は年3回にする計画である。一般市民の参加もあり、定着してきたと思われる。

自然体験講座、ソーラークッキングなどで次世代を担う子どもたちの参加を促したい。

<環境推進会議の意見>

地域住民と協働した竹林整備やソーラークッキングの活動が市民に定着し広がっていることは、継続した活動の成果であり、高く評価できる。また、河川の生物調査を実施していることが素晴らしく、地域のイベントへの積極的な参加により市民の周知に貢献しているため、引き続き意欲的に活動を継続してほしい。

<東部地区環境市民会議での総括評価>

大腸菌検査を新たに取り入れ、河川の環境保全に取り組んだ。測定の結果、汚染があることは判明したが、原因特定にはなお調査が必要と判断した。

全体的に高齢化が進む中、皆元気に活動継続できたことは評価に値すると思う。活動することを楽しめるように心掛けていきたい。

<環境推進会議の意見>

長池公園や宮嶽谷戸など地域の里山を活用した活動を積極的に展開しており、さらに自然観察など子どもが自然と触れ合う機会を確保している点が高く評価できる。また、メカイ製作技術の実演を行うなど、地域の文化の発信にも貢献している。引き続き、地域の生物文化多様性を活用した活動を進めてほしい。

第2節 環境保全団体等の活動紹介

■特定非営利活動法人エヌピーオー・フュージョン長池

1 概要

1999年に創業して以来、地域に根差しながら、「人と自然に寄り添うまちづくり」を進めてきました。長池公園をはじめとした八王子市都市公園の管理運営、八王子市地球温暖化防止活動推進センター（クールセンター）や八王子市北野環境学習センター（あったかホール）の運営、地域主体のイベント運営、地域の子どもたちへの環境教育、多様な生きものに配慮した里山管理や豊かな自然環境の保全などを、地域の多様な主体と協力しながら行ってきました。「人もまちもみどりも輝く」そんな多様性豊かな地域社会の実現を、これからも目指していきます。



地域主体のイベント「みどりのあそび市」

2 令和5年度の主な活動実績

(1) 自然共生サイトについて

環境省では、「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域（OECM）」について、「自然共生サイト」として認定する仕組みを令和5年度から開始しました。初年度は、全国184か所（340都道府県）で環境大臣認定を行うことが決定し、長池公園が東京都の都市公園としては唯一、自然共生サイトに認定されました。長池公園のみどりが、都市部において特に重要な生物多様性的価値を有していることが認められると同時に、地域の多様な個人や団体と日常的に連携を図りながら里山生態系の維持、および、生物多様性の保全に努めてきた点が、審査によって評価されたものです。



自然共生サイトに認定された長池公園

都市部における生物多様性的保全の拠点として、引き続き多様な活動を展開するとともに、今後は近隣のサイト（南多摩エリア）どうしでの交流や連携も積極的に進めていきたいと考えています。

(2) 生きもの展示室について

2023年8月より八王子市北野環境学習センター3階に「生きもの展示室」がオープンし、当団体が運営しています。八王子市の豊かな自然環境や生物多様性について楽しみながら学べる展示室を目指し、浅川をはじめ八王子市内に生息する淡水魚やカエル、カメなど両生・爬虫類、昆虫類など約60種以上の生きものを飼育展示しています。



生きもの展示室
ビオトープづくりイベント

観察会やネイチャークラフトなどのミニイベント「Ordinary Program」を毎月開催しているほか、展示室のビオトープづくりや敷地内の池の生物調査などのイベントも行っています。

今後もよりいっそう、子供たちや地域の方々にも飼育や展示づくりに関わってもらい、みんなと一緒に作り上げる展示室を目指していきたいと思います。

(3) 地域協働について

長池公園では、地域の様々な主体と連携した取り組みを行っています。中でも特に、公園の自然資源を活用した環境教育に力を入れています。地域に住む小学生とその家族を対象にした登録制ボランティア制度である「パークキッズレンジャー」は、生きもの調査や池清掃、昆虫に関する展示物作成など、親子で公園の仕事を体験しながら環境について学ぶ場となっています。また、保育園や公立小学校、特別支援学級の子どもたちを対象にした自然観察プログラムや体験学習を積極的に受け入れています。環境教育を推進することで、身近な自然への関心を高め、環境を大切にする心を育てるだけでなく、自ら考え行動する力が養われます。

将来を見据えた環境人材の育成は、自然環境の持続可能な保全にも大きく貢献するものと考えています。



パークキッズレンジャー活動の様子



長池公園自然館 標本などの環境啓発展示



長池公園自然館 子どもたちへの環境教育の様子



生きもの展示室 生きものふれあい体験



生きもの展示室 生物多様性についての講座

■八王子・日野カワセミ会

1 概要

八王子・日野カワセミ会は、浅川流域及び谷地川、程久保川、大栗川の各流域（八王子市内、日野市内）の野鳥を観察する市民グループで、1985年に発足しました。会の目的は野鳥のウォッチングを楽しむこと、浅川流域等の野鳥の生息状況を調査記録すること、浅川流域等で野鳥が安心して棲める環境作りに協力することにあります。主な活動は、探鳥会の開催、野鳥の分布調査や定期カウント、小中学生等に対する野鳥観察支援、巣箱架け活動等であり、その他、活動成果を記録・公表する会報（かわせみ）の発行（年2回）、年に数回の浅川流域以外の場所へ遠出の探鳥会を開催しています。

会員は八王子、日野在住の方中心に250名強で、野鳥に興味があり、本会の活動目的に賛同する人は誰でも会員になれます。入会を希望される方は、会のホームページをご覧ください。



2 令和5年度の主な活動実績

(1) 会報かわせみの発行（第70号、71号）

(2) 探鳥会の実施状況

①月例探鳥会 ②公開探鳥会 ③遠出探鳥会 ④平日探鳥会 ⑤地元発見探鳥会

(3) 野鳥定期カウント

浅川、小宮公園、高尾山等21コースで毎月1回、野鳥のカウントを行った。

(4) 各種調査活動

①冬鳥一斉調査 ②多摩川のカモを中心とした越冬鳥調査 ③カルガモ繁殖調査
④イワツバメ繁殖調査 ⑤オオルリ他夏鳥生息数調査 ⑥片倉城跡公園巣箱利用状況調査
⑦我が家の庭に来た野鳥調査 ⑧タカの渡り調査 ⑨ツバメの集団ねぐら調査
⑩ムクドリ、ハクセキレイ、セグロセキレイの集団ねぐら調査
⑪緑地の保全地域における野鳥の生息調査 ⑫内陸のイソヒヨドリ繁殖調査
⑬長沼駅ヒメアマツバメ調査 ⑭上柚木公園野鳥調査 を実施した。

(5) 鳥情報の収集活動

八王子市内、日野市内の「鳥等の観察情報」を収集し、データベースに収録した。

(6) 他団体、小中学校等の野鳥観察の支援、指導

①八王子市立上川口小学校他7校 ②多摩森林科学園鳥類標識調査
③上柚木公園巣箱架け活動 巣箱利用調査 ④八王子市東南部環境市民会議 自然体験講座
⑤八王子市浅川水辺の楽校 ⑥カワセミ会ジュニアクラブ野鳥観察会の支援

(7) 東京都公園協会賞へ応募し最優秀賞を受賞

「八王子市内の都市公園が野鳥の生息環境として果たしてきた役割と保全に関する提言 ～市民団体による30年間の調査結果から～」をまとめ、応募した論文が最優秀賞を受賞した。